

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 20 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 19 年 10 月～12 月期の実績および平成 20 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	23 社	76.7%
機械工業部会	30 社	16 社	53.3%
建設業部会	30 社	16 社	53.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	19 社	63.3%
合 計	150 社	92 件	61.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

—業況はほぼ横ばい・来期は大幅な悪化見込み—

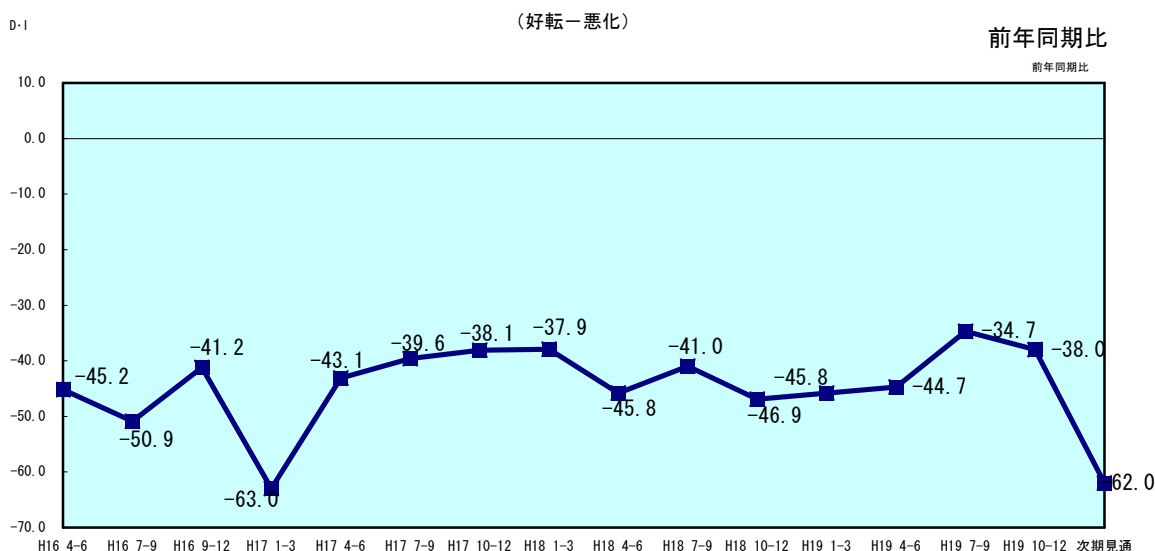
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成19年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△38.0**と前回調査時の△34.7より**3.3ポイントマイナス**となりました。回復基調に向かうと思われた数値は若干悪化の方向で推移し、市内経済を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いていることが再確認されます。

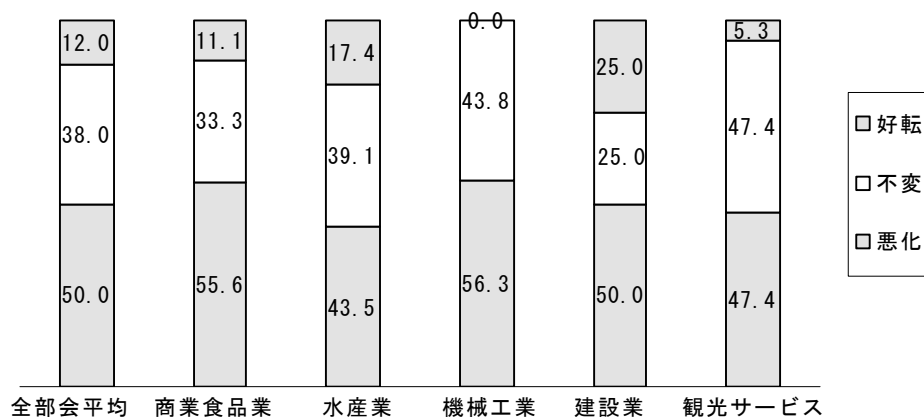
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△31.8→今期△44.4]、水産業[前期△4.3→今期△26.1]、機械工業[前期△52.9→今期△56.3]、建設業[前期△38.1→今期△25.0]、観光・サービス・諸業[前期△55.6→今期△42.1]となりました。今回の調査では、商業・食品業および機械工業、水産業の業況が悪化しています。また、全業種の半数以上の企業が、今期の売上・生産高が減少していると回答しており、経営内容が厳しくなっていると判断されます。

来期(平成20年1月～3月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが24.0ポイント悪化(次期見通し△62.4)**するとの予測となっており、なかでも水産業、建設業、観光サービス業・諸業では、業況がさらに悪化するとの見方が非常に強まっています。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況(前年同期比)



経営上の問題点としては、引き続き全業種から石油の高騰による**石油関連製品（仕入れ・部品・関連経費）の負担増**を訴える声が多く寄せられ、先の見えないこの街の状況（人口減の心配や売上の減少など）に不安を訴える声が前回調査よりもさらに増えてきています。設備投資については前期同様、依然慎重な動きが続いています。

■部会別の動向

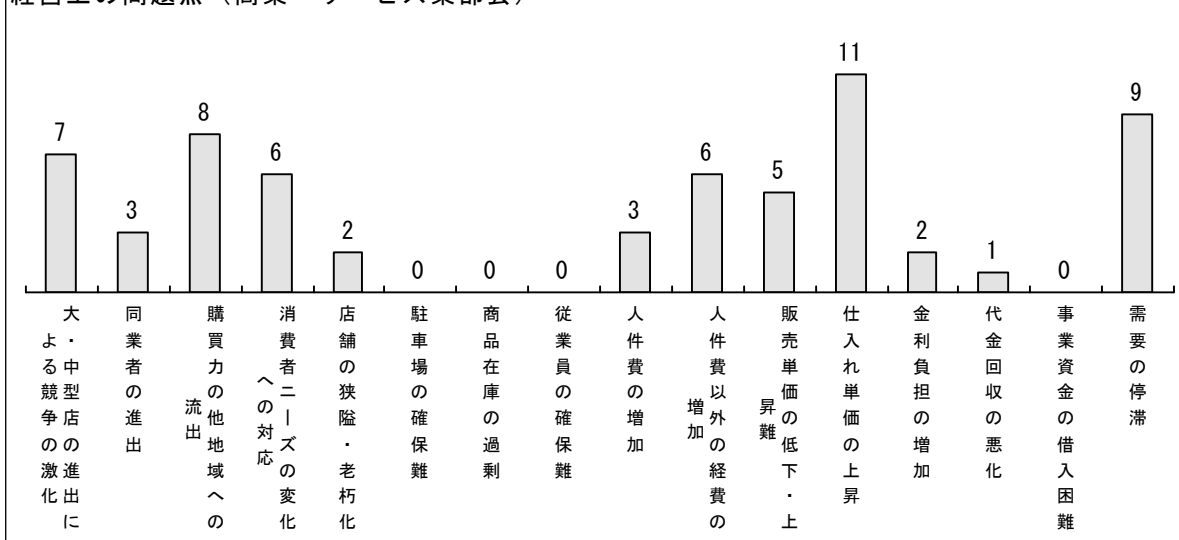
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 44.4$ （前期 $\Delta 31.8$ 、来期見通し $\Delta 55.6$ ）〕

業況DI値（前年同期比）は、依然厳しい状況で推移しています。前回調査で冬物売上の回復が期待されていましたが、予想を下回る結果となってしまいました。経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「景気の減退に伴う購買力の低下」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多くなっており、来期の見通しはやや悪化するとの見方が強い。

《業界の問題点等》

- ・中心街？に店が少ない。（小売）
- ・街全体が不況の為、商店街全体の購買が激減している。今後の見通しが見えない。（小売）
- ・この地域全体が疲弊している中、全国的に見ても昨年は本当に異常な一年だったと思う。偽装や粉飾が一気に発覚し、あらゆる分野で消費者の信頼が揺らいだ。そこに加えて原油高騰をきっかけにした諸物価の値上げが相次ぎ、消費者の自衛的手段である「物を買わない」風潮が高まった事も特徴的な傾向だったといえる。（小売）
- ・少子化、デジタル化が最大の問題（小売）

経営上の問題点（商業・サービス業部会）



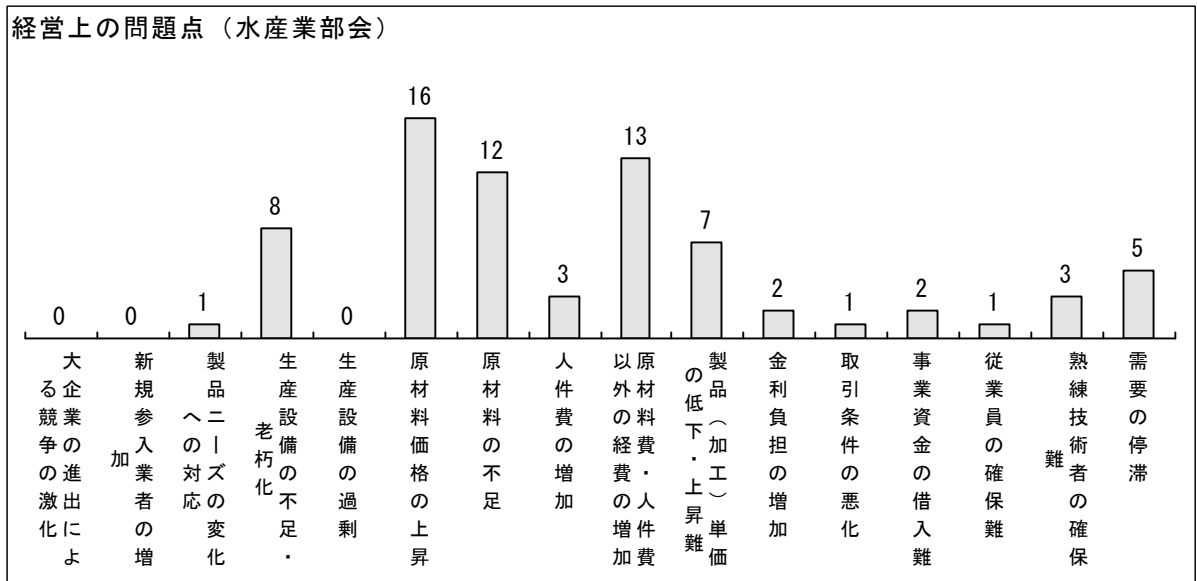
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 26.1$ （前期 $\Delta 4.3$ 、来期見通し $\Delta 65.2$ ）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期の $\Delta 4.3$ から $\Delta 26.1$ ポイントへと悪化しています。前期報告の際、来期見通しは本格的な水揚げシーズンを期待してプラス回復するだろうとの見出しが出ていたが、漁獲量の減少、重油の値上がりおよび石油関連製品の値上がりにより業況は悪化しているという結果になった。経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料費人件費以外の経費の増加」「原材料の不足」を訴える声が多くなっており、来期の見通しはさらに悪化するとの見方が強い。

《業界の問題点等》

- ・仕入物価はほぼ全て値上がりしており、又、値上げの交渉を受けているものもあり、商品価格に転嫁出来ず、収益を圧迫しており、決算では収益減が予想されている。（水産加工）
- ・先行きの原料不安（水産加工）
- ・石油の値上がりによる原料・資材・運賃等の値上げ分の原価吸収。又、製品の値上げが必要となり、消費の減少に繋がらないか。何かと今年は石油関連の経費の増大や製品の価格に変

- 化が必要となる。①燃料の価格上昇 ②製品の需要の低下（水産加工）
- ・ ①年々原料が少なくなっている ②燃料費の高騰により1.5倍増 ③従業員の高齢化

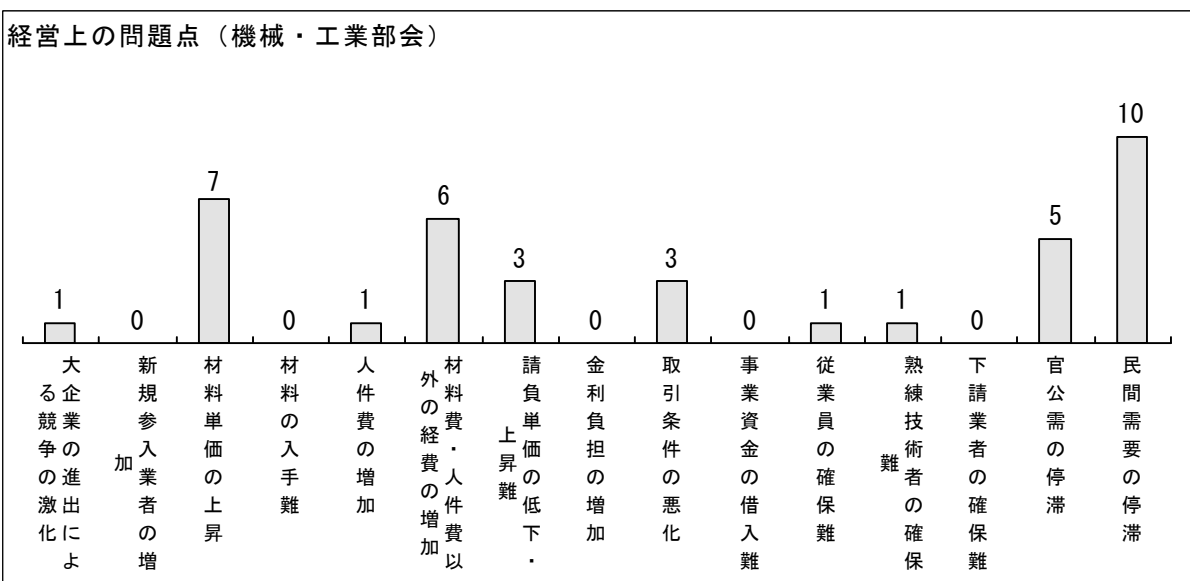


【機械工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 56.3$ （前期 $\Delta 52.9$ 、来期見通し $\Delta 18.8$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期比で3.4ポイント悪化。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「材料単価の上昇」「材料費人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっており、来期は比較の見通しが明るい模様。

《業界の問題点等》

- ・ 廃業等の取引先があり、営業件数が減っている為対策をしている。新規の生産工場の進出に期待している。（機械修理）
- ・ 2月より結氷期に入り休業状態（製造業）
- ・ これまでのように無策でいけば人口は12～3年後には2万人を切り、その後は加速的に衰退していく街となる。（車両販売）
- ・ 農産物の生産量の制限及び生産資材の値上がり、燃料の値上がり等の為、農家全体が所得の特別悪化。関係取引先商業者は今後の悪い状況が続くと予想。（車両販売）



【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 25.0$ （前期 $\Delta 38.1$ 、来期見通し $\Delta 81.3$ ）]

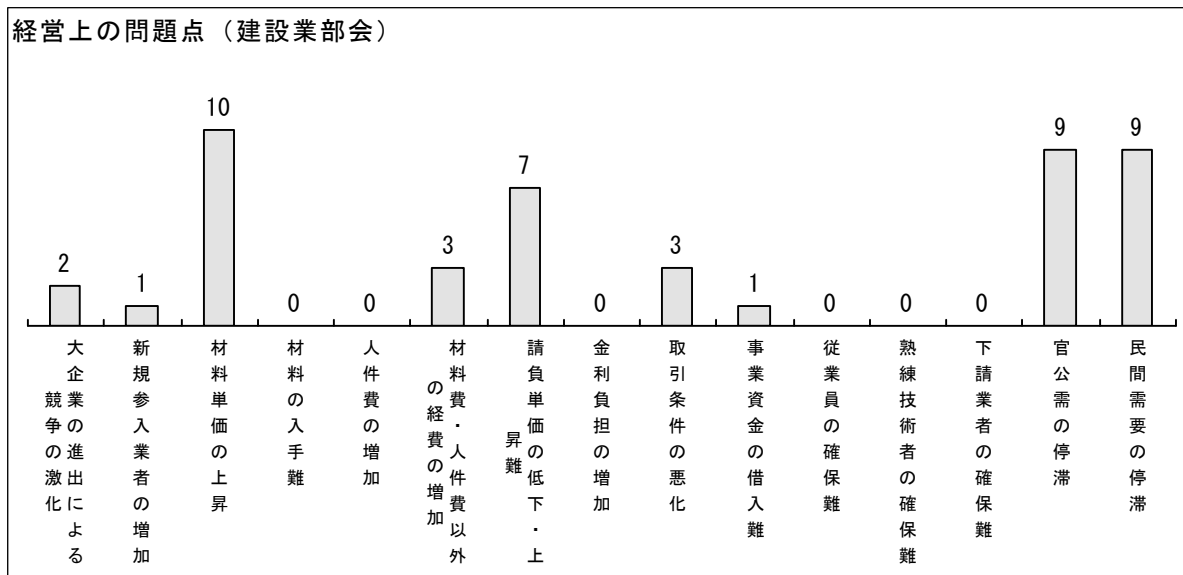
業況判断DI値（前年同期比）は前期比13.1ポイント改善されましたが、依然として先行き

が見えない状況にあり厳しさを増しています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっております。

来期は極端に仕事の少ない冬期を迎えることもあり、見通しとしてはさらに悪化するとの見方が強い。

《業界の問題点等》

- ・①需要の減少、企業努力も限界に近づく感がある。②先の見通しがまるでない。(建設)
- ・工事件数の減少(建設)

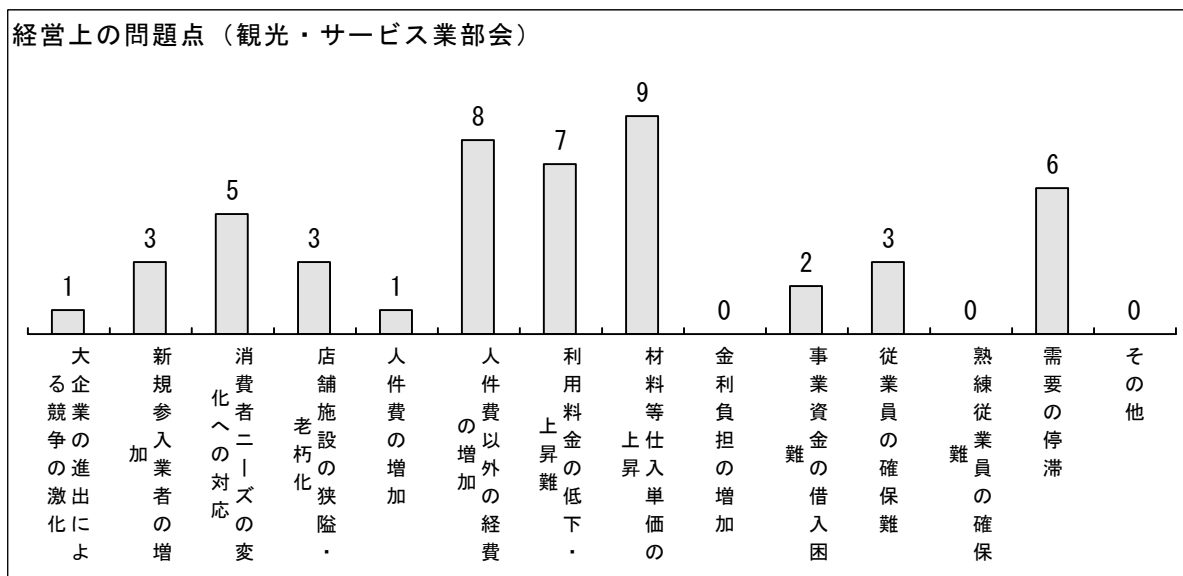


【観光・サービス部会】〔業況判断DI値(前年同期比)△42.1(前期△55.6、来期見通し△84.2)〕

業況判断DI値(前年同期比)は前期よりも14.5ポイント改善しました。経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」など、燃料の高騰による経費増加や人口減少による売り上げへの影響を心配する声が多くなっております。来期の見通しはさらに悪化するとの見方が強い。

《業界の問題点等》

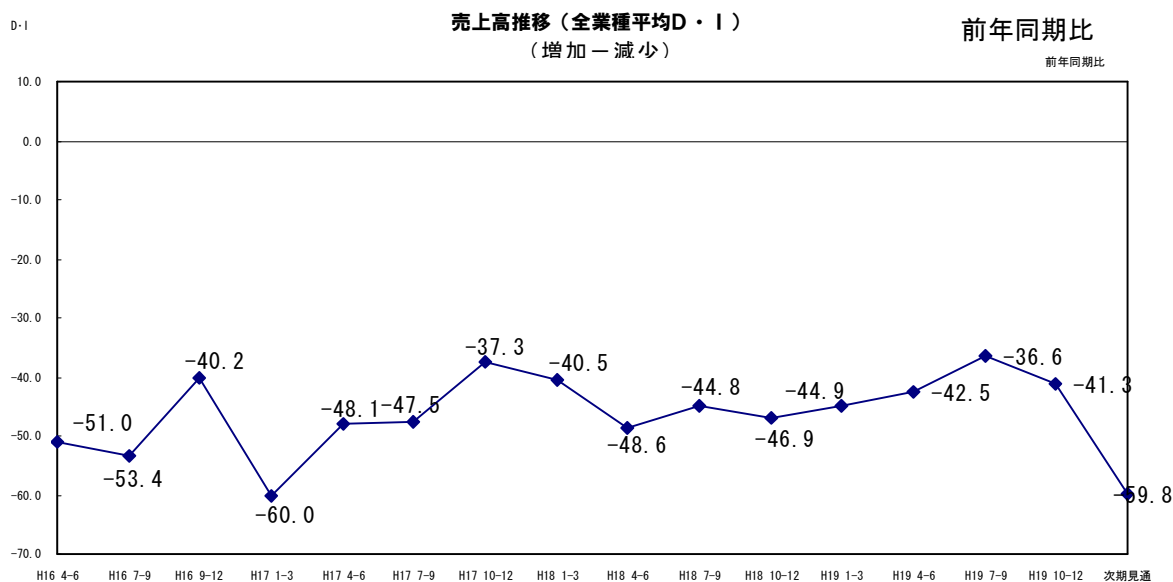
- ・店舗の老朽化に伴い、灯油等の値上がりはかなり厳しくなると思います。(飲食店)
- ・燃料の高騰と需要の減少、人口の減少が主だった問題点である。(運送業)
- ・石油の値上がり・①少子高齢化 ②人口減少(サービス業)
- ・大型スーパー等の進出により小売店の廃業等によるお客さまの激減によるもの(サービス業)



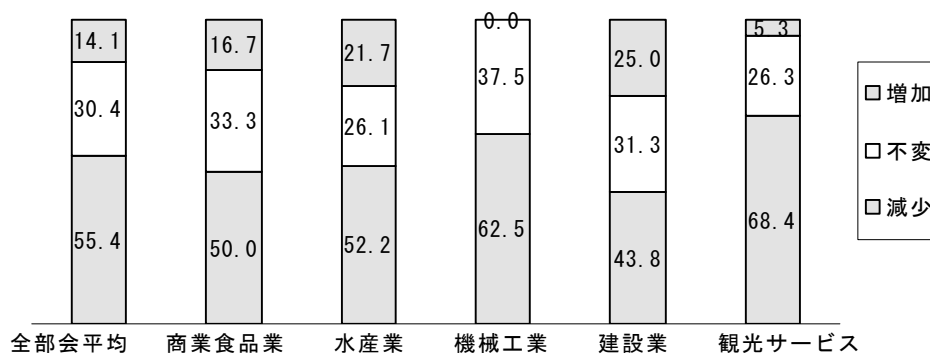
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）

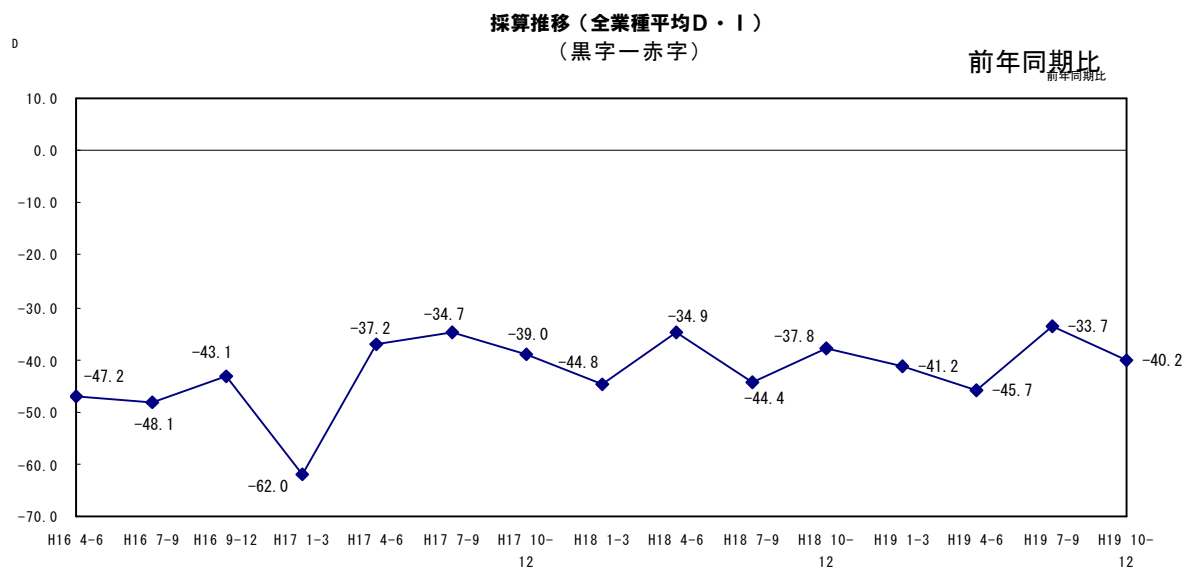


全業種平均でDI値 $\Delta 41.3$ 〔前回調査時（平成 19 年 7～9 月期 $\Delta 36.6$ ）より 4.7 ポイント悪化。〕
来期は 18.5 ポイント悪化し $\Delta 59.8$ の見込み。

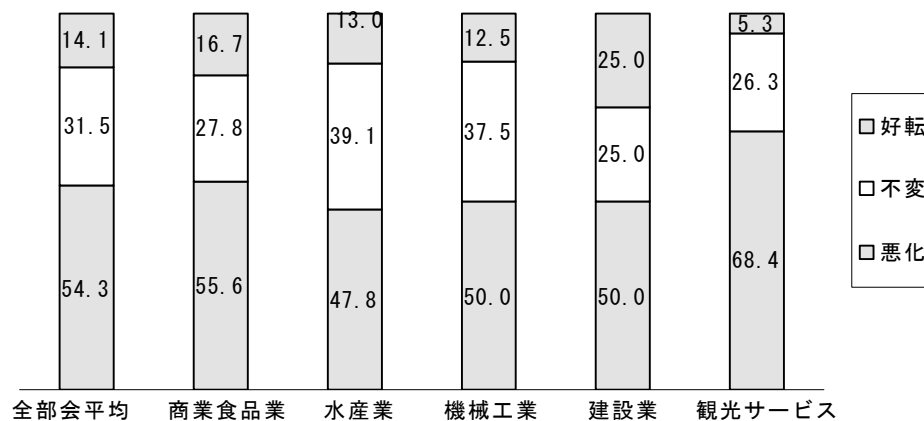
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 40.9 \rightarrow \Delta 41.3$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 8.7 \rightarrow \Delta 30.4$ 〕
機械工業〔前回 $\Delta 58.8 \rightarrow \Delta 62.5$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 33.3 \rightarrow \Delta 18.8$ 〕
観光・サービス業〔前回 $\Delta 50.0 \rightarrow \Delta 63.2$ 〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

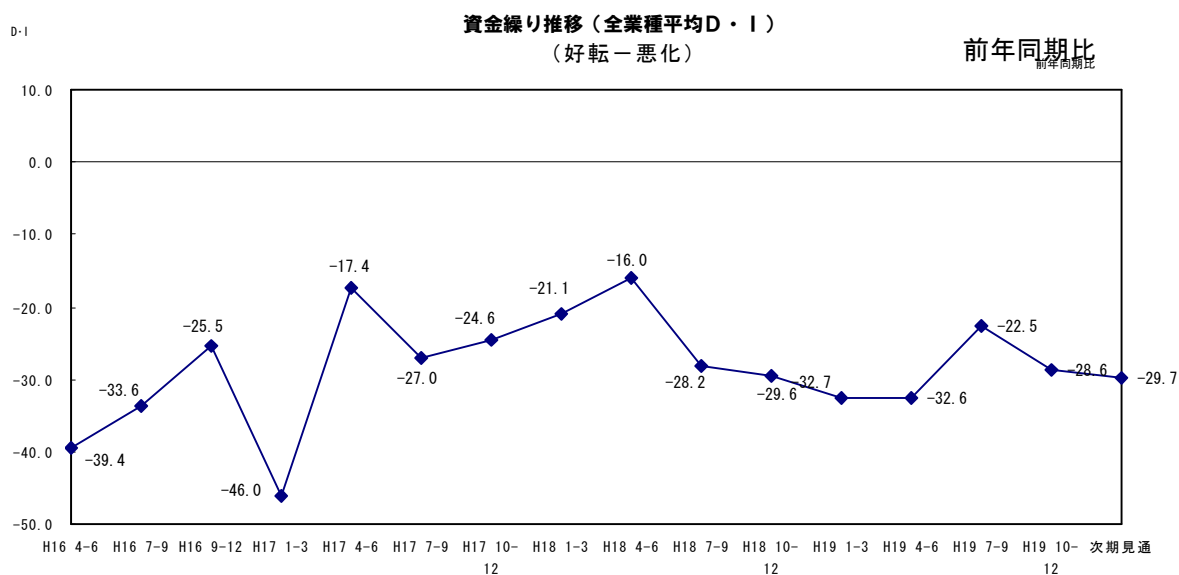


全業種平均でDI値 Δ 40.2〔前回調査時（平成 19 年 7～9 月期 Δ 33.7）より 6.5 ポイントマイナス幅を拡大〕

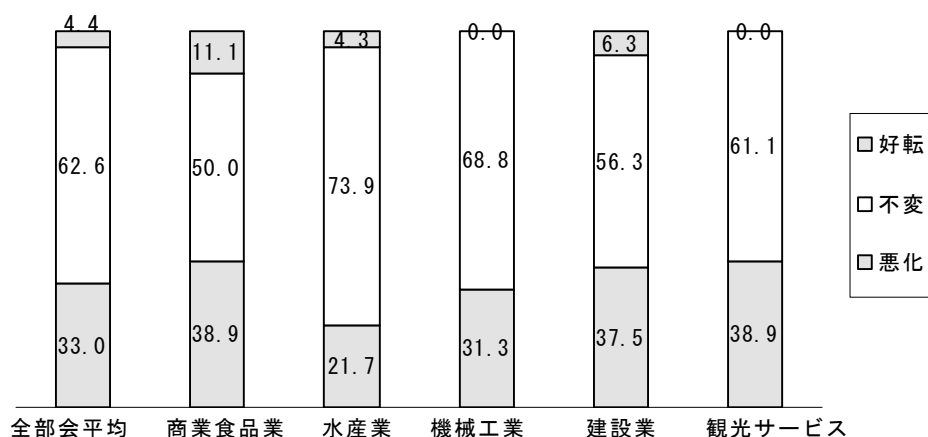
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 Δ 31.8 \rightarrow Δ 38.9〕、水産業〔前回 Δ 8.7 \rightarrow Δ 34.8〕
 機械工業〔前回 Δ 58.8 \rightarrow Δ 37.5〕、建設業〔前回 Δ 33.3 \rightarrow Δ 25.0〕
 観光・サービス業〔前回 Δ 44.4 \rightarrow Δ 63.2〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



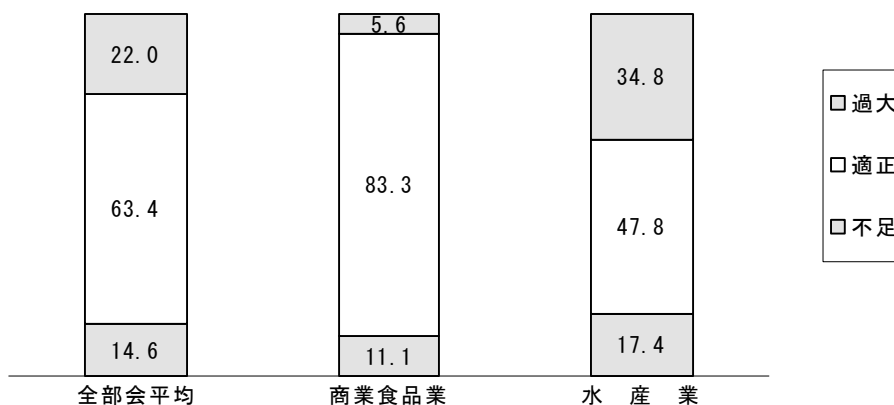
全業種平均でDI値 Δ 28.6〔前回調査時（平成 19 年 7～9 月期 Δ 22.5）より 6.1 ポイントマイナス幅を拡大〕 次期見通しはほぼ変わらず。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 Δ 22.7 \rightarrow Δ 27.8〕、水産業〔前回 Δ 13.0 \rightarrow Δ 17.4〕
機械工業〔前回 Δ 25.0 \rightarrow Δ 31.3〕、建設業〔前回 Δ 28.6 \rightarrow Δ 31.3〕
観光・サービス業〔前回 Δ 25.0 \rightarrow Δ 38.9〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



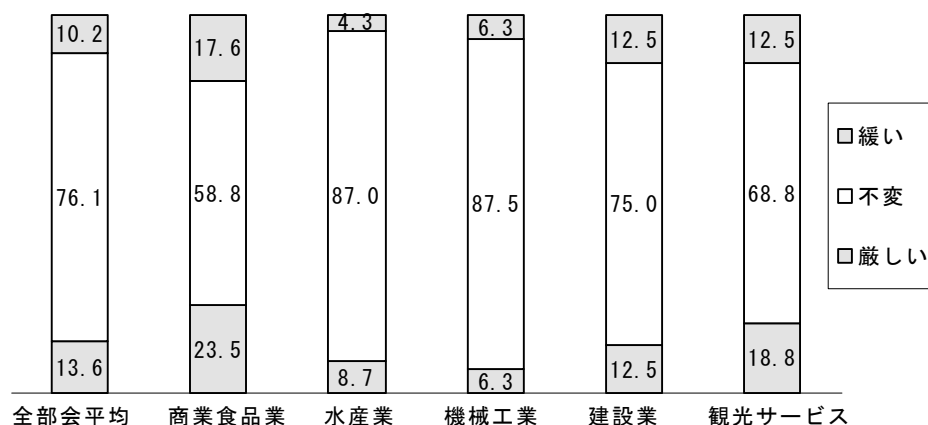
全業種平均でDI値+7.4〔前回調査時（平成 19 年 7～9 月期+4.4）より 3.0 ポイント在庫増加〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 4.5→△5.6〕、水産業〔前回 5.6→17.4〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

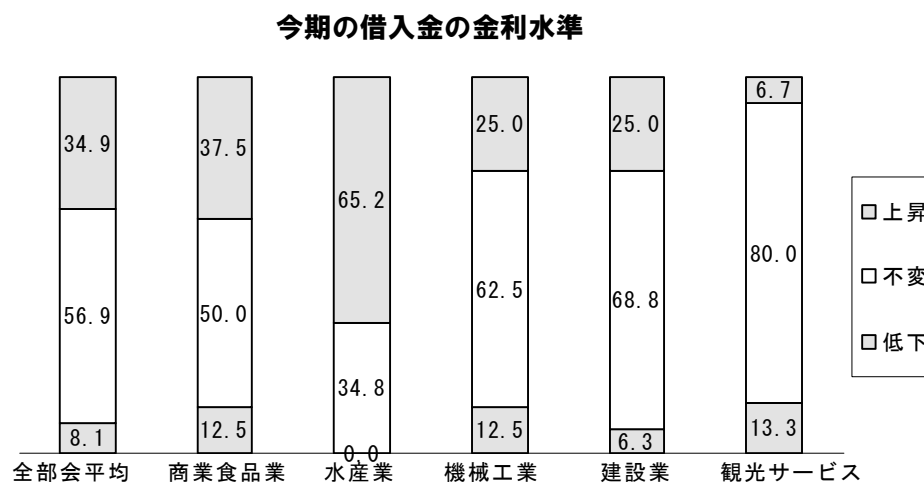
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で△3.4 ポイント。商業食品業△5.9 水産業△4.3 機械工業 0.0 建設業 0.0 観光サービス業△6.3。

(6) 今期の借入金の金利水準

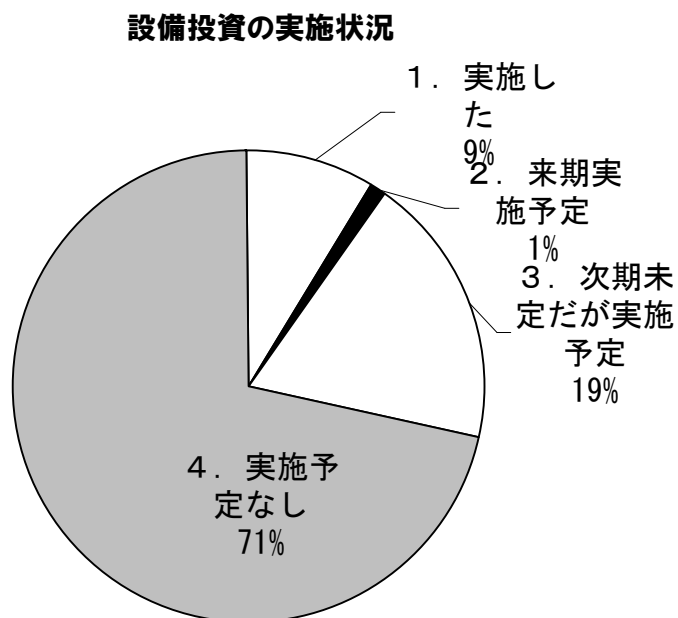
【前年同期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で+26.8。商業食品業 25.0 水産業 65.2 機械工業 12.5 建設業 18.8 観光サービス業△6.7。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

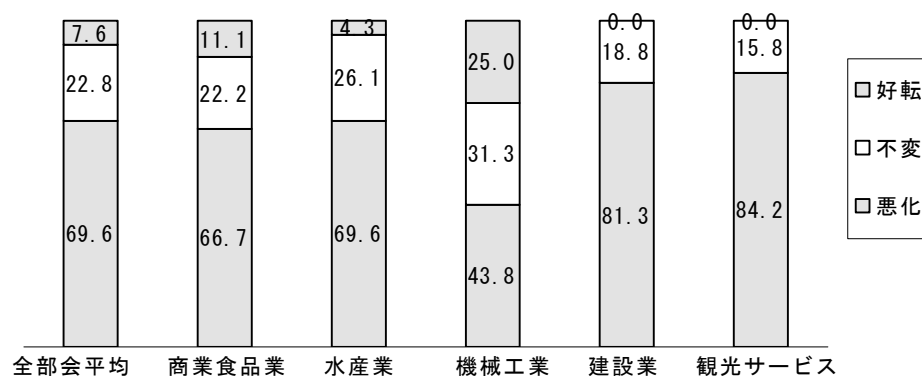


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 19 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

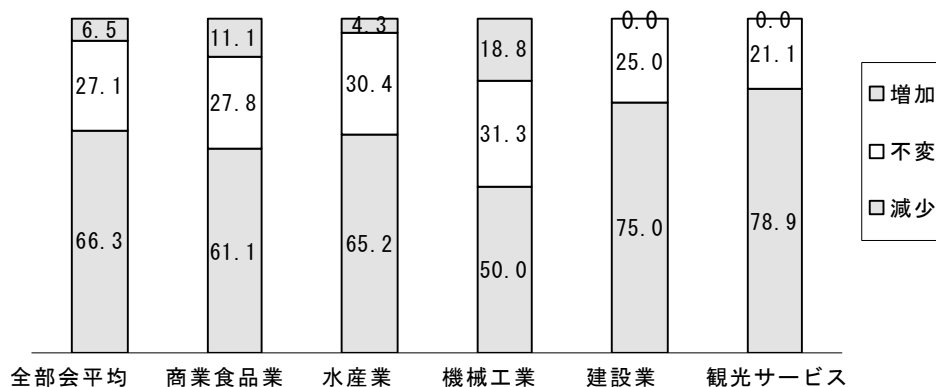


全業種平均 DI 値△62.0 [今期の業況（前年同期比△38.0）より 24.0 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 19 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

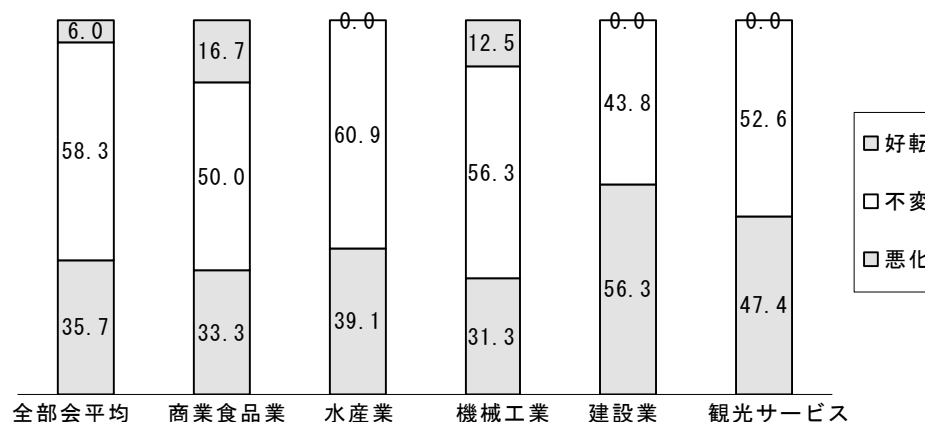


全業種平均 DI 値△59.8 [今期の売上高・生産高（前年同期比△41.3）より 18.5 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 19 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 29.7$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 28.6$ ）より 1.1 ポイント悪化の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 38.0$	$\Delta 44.4$	$\Delta 26.1$	$\Delta 56.3$	$\Delta 25.0$	$\Delta 42.1$
	来期見通し	$\Delta 62.0$	$\Delta 55.6$	$\Delta 65.2$	$\Delta 18.8$	$\Delta 81.3$	$\Delta 84.2$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 41.3$	$\Delta 33.3$	$\Delta 30.4$	$\Delta 62.5$	$\Delta 18.8$	$\Delta 63.2$
	来期見通し	$\Delta 59.3$	$\Delta 50.0$	$\Delta 60.9$	$\Delta 31.3$	$\Delta 75.0$	$\Delta 78.9$
在庫 D・I	今期実績	7.4	$\Delta 5.6$	17.4	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 40.2$	$\Delta 38.9$	$\Delta 34.8$	$\Delta 37.5$	$\Delta 25.0$	$\Delta 63.2$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 28.6$	$\Delta 27.8$	$\Delta 17.4$	$\Delta 31.3$	$\Delta 31.3$	$\Delta 38.9$
	来期見通し	$\Delta 29.7$	$\Delta 16.7$	$\Delta 39.1$	$\Delta 18.8$	$\Delta 56.3$	$\Delta 47.4$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 3.4$	$\Delta 5.9$	$\Delta 4.3$	0.0	0.0	$\Delta 6.3$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	26.8	25.0	65.2	12.5	18.8	6.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。